

# 稲作だより

第9号 高温少雨対策編

令和7年7月24日

最上総合支庁農業技術普及課 ☎0233-29-1333

## 猛暑続く予報

出穂時期に合わせた細やかな水管理を！

斑点米カメムシ類かなり多い

### ◎出穂予想（7月18日現在）高温により出穂がさらに早まる！

| 地域    | 品種     | 移植日   | 出穂予想        |
|-------|--------|-------|-------------|
| 新庄市泉田 | はえぬき   | 5月26日 | 8/4（平年－2日）  |
| 新庄市泉田 | 雪若丸    | 5月28日 | 8/5（平年－2日）  |
| 舟形町富田 | つや姫    | 5月16日 | 8/7（平年－3日）  |
| 最上町向町 | あきたこまち | 5月22日 | 7/30（平年－2日） |

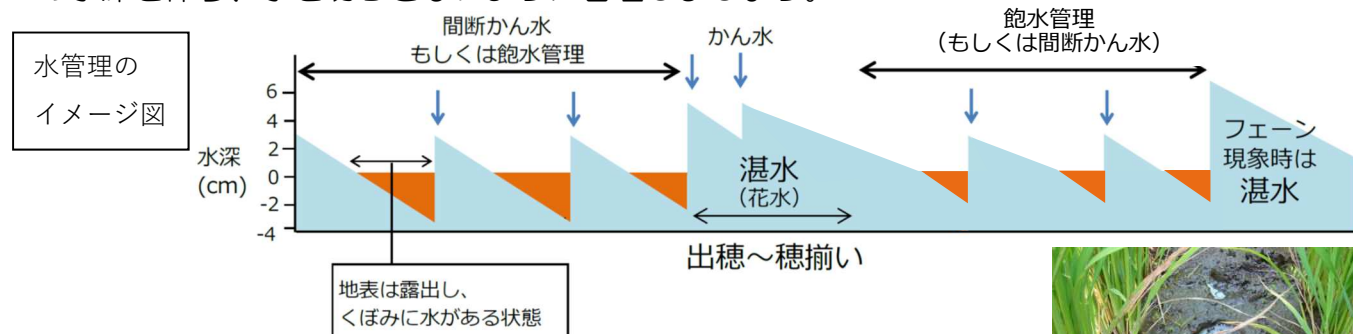
※普及課生育診断圃場等の幼穂発育状況から予測

### ◎出穂前後の水管理

出穂直前までは「間断かん水」「飽水管理」で土壌を酸化的に保ち、根の活力を維持しましょう。農業用水の流量が低下していますが、出穂・開花期は、稲にとって最も水が必要な時期です。出穂・開花期の干ばつは、不稔粃の増加や穂の出すくみの原因となり、稲の葉が巻いている状態となれば、減収程度や品質低下が大きくなります。走り穂が見えたら湛水し、穂揃期までは2～5cmの水深を保ち、水を切らさないように管理しましょう。



出穂・開花期は圃場を乾かさない！



本年は高温登熟となる可能性が高い予報です。

穂揃期以降は、水温・地温を下げる「飽水管理」を意識してこまめに湛水しましょう。

【飽水管理】湛水せずに土壌を常に湿潤状態に保つ水管理。浅水程度に灌水し、自然落水で足跡に水が残る程度(右写真)になったら再度灌水することを繰り返す



写真 飽水管理の様子

**斑点米カメムシ類の平均すくい取り虫数がかなり多い状況です。  
地域全体で防除を徹底し、密度を低減しましょう。**

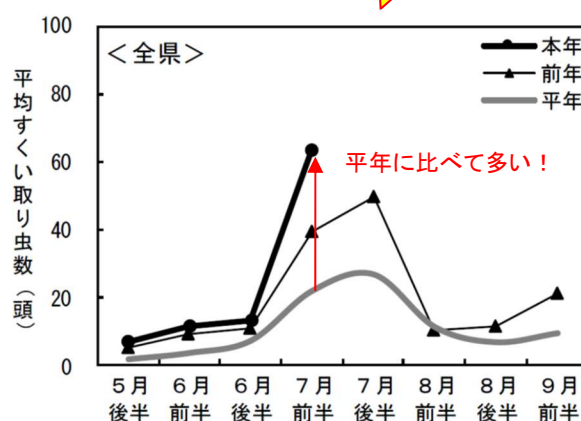
**注意報  
発令中!!**

## ◎斑点米カメムシ類対策

出穂期間近の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田内に追い込む原因となり、斑点米増加のリスクを高めます。

7月の一斉草刈り後は、8月末までは原則草刈りを行わないようにしましょう。

やむを得ず草刈りを行う場合は、薬剤防除の直前に実施します。



①穂揃期と②その7～10日後に必ず防除を行いましょう!

高温年は2回目の防除後も8月下旬に斑点米カメムシ類が多発する恐れがあります。

2回目の防除後も斑点米カメムシ類が確認された場合は、補完防除(2回目の防除の7～10日後)を行いましょう。

## ◎いもち病対策

発病程度は高くないものの、今年も各地で葉いもちの発生が確認されています。

葉色が濃い圃場では特に注意し、こまめに見回りを行いましょう。

薬剤防除は、①穂ばらみ後期、②穂揃期の2回が基本ですが、病斑を発見したら直ちに治療効果の高い薬剤で防除しましょう。



写真 いもち病(葉)



写真 紋枯病

## ◎紋枯病

前年の発生が多かった圃場は要注意!

主に畦畔周辺の地際から発生し、茎数が多い圃場や高温時に発生が多くなります。前年に発生が多かった圃場では、特に注意が必要です。

## ◎褐色米(カーブラリア属菌による)

高温登熟年であった令和5年に県内全域で発生し、登熟期の高温による稲体の消耗・抵抗力低下が主要因と推察されています。

精米しても褐色部分が残り、落等の要因となります。出穂後の早期落水により褐色米の発生が多くなるため、高温年は特に、登熟期間の後半も土壌を湿潤状態に保ちましょう。



写真 褐色米の外観  
玄米が淡褐色～暗褐色になり、表面に黒褐色の小斑点が形成される

**農作業事故と熱中症に十分注意してください!  
休憩をまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を!**